

# 大野木グラウンドワークだより

平成 22 年 5 月 13 日 発行 NO 43

発行責任者 藤田 博、伊藤 晋

5 月 9 日 快晴まさに 5 月晴れのさわやかな一日が始まりました。田んぼも畑も忙しく働く人々の姿が多い中、GW の定例会作業に今日も 16 人の方々が参加してくれました。

当面、6 月のほたるに向けて段取りしながら森の整備を進めていくことに  
まず、仮称：たまり場第 1 号（旧柴崎邸の木品）の不用品の焼却処分から、他に不要竹材が持ち込まれながら産廃処理場みたいな状況からファイヤーサークルに大きな火が上がり、周辺草刈が 5 台の草刈機で実施

で、ハプニングが二つ、実は今日の賄い材料である鶏肉を軽トラの荷台から上手にカラスにつまみ上げられあわてて家庭材料で補給とのこと、もう一つは社員クラブの鍵の借り忘れに気付き瀧上さんの朝寝を起こし届けてもらったこと、どうも気がゆるんでいるのでしょうか。

10 時の休憩時には照寿さんが一週間かけての力作である屋台の組み立て、一同すごーいの連発。屋根はのれんはということになって早速「よしず」を購入、取り付けてどうだほんとに彼は何をやっても完成度が高く頼りになるメンバーです、これで 6 月のシャトルバスのお客さんを迎えるベースが出来たことに、コースターは既に完成していますし、飲み物、揚げ物、筆立て、たわしとメニューも揃ってきました。

さてさて次は実際の運用確認になりますので薄暮から夜間にかけてのリハーサルが必要でそれでもって修正箇所を確認することがあれば対応ということに  
次回は午後開始で夕刻から夜間にかけてのほたると電気関係、位置関係を確認することに

お昼は春の山菜ご馳走に

みょうが竹（みょうがの芽）・三つ葉・タケノコ・野菜の天ぷら、ふきの煮物、モヤシとレタスのいためもの、おから、高菜いため、きゅうりと玉ネギのマネリ、味噌汁、炊き込みご飯、奈良付け

## 気になるお話

ライフスタイルの変化、便利な社会の裏返し、家族の形、単身社会～無縁社会  
身元不明無縁死が全国で3万2千人に達するという。気付かないうちに水面下ですごいこ  
とが起こっているという。これは一体どういうことなのか、行旅死亡人の情報は毎日官報  
告示されている。

都市では今そんなことがあるとしても、ここ大野木ではそんなことはあってはならずふる  
さと大野木とのつながりをなくしてはいけません。

家族とふるさとのつながりを大切にすれば孤独にはならないのです。ひとは生まれながら  
にしてなのか、人生の結果として不条理が生まれている。

都会では家族さえつながりをもたない状況がうまれているという、これは将来拡大してい  
くともいわれている。

今日的な状況要因として団塊世代、リストラ、非正規雇用がいられている。

さらに大きな要素として生涯未婚が増え続けていること、孤独死が余りに多い。

20年後には女は4人に一人、男は3人に一人が生涯未婚になるという。

近くに家族ともいえる人がいれば、安心して老いる、安心して死ぬという

都会ではもうそれがなくなってきたという

無縁社会のことをどう受け止めていくのか

ひとごとではなく誰にも起こり得ることで

この現象が急速に進んでいる

社会的な人間関係が安定していない

家族の形が変わる時代になってきている

結婚しない人が増えていく、不安の加速

離婚率の高まり、子どもの貧困～どう対処すべきなのか

まだまだ、雇用の流動化、不安定化が続くとするなら

それへのヒントとして地域での共同作業～から互いにメッセージが伝わる工夫が出来るの  
ではないかと、田舎だからこそその「きずな社会」が役割として「新たな公共」を担う時が  
来ている、迫ってきているともいえるのではと考えますがいかがでしょうか。

これまで春の畑作準備が進み、じゃがいもの植え付けに始まりトマト、ナス、メロン、ス  
イカ、さつまいも、うり、トウモロコシなど苗木がどこのお宅も今年の場合を決め石灰  
やりと耕作、畝つくりと土壌改良、肥料の間合いを取りながら、しっかり段取りして管理、  
収穫の目安、楽しみも暖かさと同比例して高まってきております。

ところが、ここ最近やっかいなことに鹿、猪、ハクビシンが作物をねらって夜毎出没、しかもどんどんエリアを拡大しながら次から次へと野菜を食い散らすことから自衛手段としてネット、トタン張り、有刺鉄線と対策をとっていただいています。

この冬の大雪で東区一帯の電気柵は倒木等により大被害を受け 4 月中旬に全線の改修が行われ通電復旧しましたが、これを超えてくる鹿、迂回してくる鹿、潜ってくるもの、または竹藪に潜んでいるらしきものが

市役所設置の檻の効果は期待薄、大野木区独自のワナ免許対策もいまのところ 3 月からの狩猟期間外の特別許可には消極的であり、とするとやはり何らかの自衛を講じなければ、で、最もそうなのかという伺ったお話が一つあります。

それは「臭い付け」という動物本来の機能をチェックすることだそうです。

今では人糞を畑地にまくことは下水道の普及でほとんどなくなりました。

ですから動物たちの夜のエリアが拡大したとする理屈です。

その対策は簡単です、畑で出来るだけ立ち小便をすることだそうです。

すると動物たちは人間の臭いで自衛本能が働き、畑地に侵入してこないという説ですが、いかがでしょうか。

農水省データでは 08 年度全国農産物被害は 199 億円、鹿 58 億円、イノシシ 54 億円としている。

有効な対策の一つは人間オオカミである、イタリア料理、フランス料理のように野生動物を食肉にすることで、肉は低脂肪でくせがなく肉のおいしさは一年中変わらない、しかも低カロリーで高たんぱく質、鉄分などのミネラルも豊富な食材であるという。

いまのところ野生動物を捕獲して食用販売する場合の解体食肉処理には、現在のところ法的な規制がなく各県の自主的な衛生ガイドラインで解体処理マニュアルや施設の衛生管理などを定めている

08 鳥獣被害防止特措法～地域の食肉事業化への取り組み支援

食肉処理施設整備、商品開発、販売流通経路の確立、技術研修などに補助金

逆転した戦略で鹿、イノシシこそおらが里の「地域の資源」として利活用すること、今こそオオカミのすすめを

### 地震のお話 3 (活断層)

1891年濃尾地震で根尾谷断層のずれが地表に現れて以来、1974年の伊豆半島沖地震で活断層の研究が本格的に始まったといわれる。1995年阪神大震災では淡路島の地表に野島断層が現れた。2000年に鳥取県西部地震、2004年に新潟県中越地震、2005年福岡県沖地震、2007年能登半島地震、2008年岩手・宮城内陸地震と活断層が動き大きな被害をもたらしている。

活断層には「ひずみ」が蓄積していつ、耐え切れなくなると岩盤が破碎されて地震となる。平均活動間隔は1800～2500年といわれ、こんなに長いサイクルですからこれまでの過去の記録がしっかりしていないと、それから人間のサイズからしますと25～35代くらいになりますから長大過ぎてちょっと身の丈のメモリアルには合いません。

それだけに予測・予防も困難になってくるのかなと。今、日本には分かっているだけで約2,000本の活断層があるといわれている。大野木に影響する地震の目はどうかといえますと前後左右びっしりと活断層に取り囲まれておりまして逃れようがありません。

それがいつどんな規模で起こるのかまだまだ分かりません。しかしこれまでの例から地域の良き関係が保たれていることが被害対応に大きな効果を発揮されていることには学ぶ必要があります。

自分で出来ること・家具を固定する、寝る場所は一階より二階で、いつも手元に(枕もとに)懐中電灯、スリッパ、笛を用意しておくことなどご家族で話し合ってみてください。

### 生物多様性のこと

10月に名古屋で「COP10」が開かれる。これはConference Of the Partiesの略称で「生物多様性条約第10回締約国会議」のこと。このはじまりとして1992年にブラジル・リオデジャネイロで開かれた地球サミットで署名が始まったとされている。

現在193の国が批准しているがアメリカは批准していない。

アメリカという国はヨーロッパの攻めぎ合いの中から、さらに荒くれどもがキリストの制服主義者によって、よく言えばフロンティアをもって略奪建国した民で、ヨーロッパ・アメリカでは仏教、儒教でいう「なごむないし和合」という精神構造は全くない。その証左に近くは普天間移設についてママ鳩なんか全く相手にしていない、交渉ではなくアメリカは日本を押さえているのであって間違うなヨ というメッセージがいまだに続いている。いわば征服者はアメリカというわけ、とかく現世ではアメリカと中国、ロシアはとんでもない国であることを確認しておく必要があるが、そんなことはともかくとして

この生物多様性条約と気候変動枠組み条約がいずれもCOP何々と呼称しているからどっちがどっちだかわからないことがある。

なぜならこれは双子の条約といわれ同時発車しているからである。

そこで今回の COP10 であるが 10 月 11 日から 29 日まで開かれることになっており、その主なテーマは「遺伝資源へのアクセスと利益配分」とか～聞いても何のことかよくわからん。要するに生物の多様性が失われ続けることへの対策や目標について検討しようということらしい。

といってもまだ難しいですね、そこでもうちょっと入っていきますと

で、生物の多様性とは何ぞやということですが、

地球に最初に生命が誕生したのは約 40 億年前といわれている。それから長い時間をかけて変化、進化してきて～現在のデータでは 174 万種の生き物が発見されているが、まだ知られていない種は 3 千万種あると考えられているとのこと。

生き物の多様性といわれるものは三つあって、一つは「生態系の多様性」で森、里山、湿原など地域と気候によって特徴のある自然から成り立っているもの。

二つ目は「種の多様性」でいろんな生き物が生息していて植物を草食動物が食べ、草食動物を肉食動物が食べる連鎖でつながっている。

三つ目は「遺伝子の多様性」で同じ種でも地域によって異なる遺伝子を持つ、同じゲンジボタルでも場所によって発光周期が違うことなどがその代名詞といえる。

そして多様性の恵みとしてはトマト、スイカ、リンゴ、イチゴ、などはハチのような授粉を媒介する生き物が大きな役割を果たしているし、肉や魚、木材、繊維、医薬品、酸素供給、洪水防止、清潔な環境など。生き物から人間にもたらされる恵みは「生態系サービス」といわれ、その価値は 5,000 兆円といわれ世界の総生産（GDP）の 3 倍になるともいわれている。

次に何で失われていくのかということ、過去に地球上で 5 回の大絶滅があったといわれ、巨大隕石の衝突で恐竜が絶滅した時代は千年に 1 種の絶滅速度であったものが現在は 1 年間で約 4 万種が絶滅しているといわれている。

日本の公表リストで絶滅の恐れありとする野生生物は 3,155 種である。

原因は①開発と動植物の乱獲

②里山の手入れ不足

③外来種の影響

④地球温暖化 といわれている。

で、人間の活動による生物の絶滅が加速している現代は 6 回目の第 3 波にあたるとする学者もいる。

第1波は人類の狩猟能力が高まったころ

第2波は太平洋の島々に人類が住み着いて鳥の絶滅になったこと

第3波は現代の人口爆発と産業の発展で複合的な打撃となっていること

懸念されるのは短い期間で進むと生物の適応が間に合わず、残された生態系は非常にゆがんだものになるのではとのことである。

ゆがむとは、まさかミミズが空を飛ぶことはないとしても

例えば少子高齢化が進み限界集落が全国に広がれば、耕作放棄地が拡大し里山はどんどん前のめりになってきて食害による植生変化が起きて結果、雑食性の強いイノシシ、アライグマ、カラス、タヌキなどが異常繁殖して極度に生態系バランスがくずれ人々は動物園の檻の中へ逃げ込むことになるかも知れませんぞ。

このまま進めばほんとに大変なことになるが、もう人間の活動はこれ以上は続かないだろうとする見解もある。石油エネルギー、食料、水、宗教等々から限界説もある。

しかし、人間が生きていくためには生物多様性というバランスがくずれることがあってはどうにもならないのであって、そのことから COP10 は意味があるのでは

要するに里山は防戦ラインの最前線といえ、ここで踏ん張らないと～

早朝ウォーキングの町田で須川の O さんに出会い「早くからおきばり」と声を掛けますと「百姓が好きなんや」と返ってきました。そこですかさず「ええこっちゃんやから」とメッセージを送り互いににっこり、朝のすがすがしさの中、草刈の方、ウォーキングの方、犬の散歩の方、山の緑が濃くなってきて気持ちの良い風が吹き向けていきます。

さて今回はホテルです、時間が変則になりますのでご注意ください

**次回 6 月 6 日（日）は 14 時集合 19 時 30 分まで**

**6 月 12 日（土） 15 時集合 20 時まで**

**6 月 13 日（日） 15 時集合 20 時まで**

すみませんが女性陣は 9 時に公民館集合をお願いします

政所川はホタル川 ホタルを見に来てね



新緑とウグイスの鳴き声に心がいやされました。



夢塾公園前を流れる政所川、6月10日にはホタルが乱舞します。見に来てね



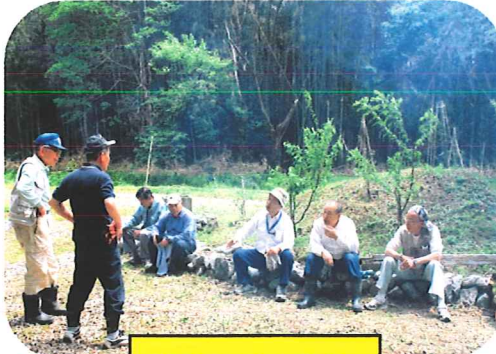
キンポウゲの黄色が鮮やかです



この時期には踊子草も咲き乱れます



屋台の組み立てが出来ました



休憩はホタル談義



ヒノキ伐採と皮むき作業



竹やり作業も実施



昼食は旬の山菜を戴く「ウド、タケノコ、ミツバ、ミヨウガダケ、ETC」



ホタル祭りや他のイベントにも移動し参加します。



六月十二日・十三日はホタル祭「ワンコイン販売」します。このようなイメージで販売します、数に限りがあります、是非夕方には来て下さい。

次回は六月六日午後二時から  
参加よろしく